

## 2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚士学科	科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	機能性構音障害	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	二年次	学期及び曜時限	前期 金曜4限 他	教室名	405教室
担 当 教 員	野津 裕子 他	実務経験とその関連資格	野津:病院勤務時、小児の構音障害に対する訓練業務の実務経験がある。		

### 《授業科目における学習内容》

機能性構音障害の種類と内容、検査法、および治療・訓練の理念とその方法について習得する。機能性構音障害について専門的な知識・技術を身につける。臨床現場において、子どもが意欲的に訓練に取り組めるような教材を構想し、グループで協力して教材を作成し、最終的には、訓練の目的、教材の使い方、子どもに配慮すべき点などを、発表してもらいます。

### 《成績評価の方法と基準》

定期試験(50点)、レポート(50点)で評価する。

### 《使用教材(教科書)及び参考図書》

【教科書】「構音障害の臨床－基礎知識と実践マニュアル」 金原出版

### 《授業外における学習方法》

各回の講義後に復習を行うことで疑問点を明らかにする。その疑問点については調べ学習や講師への質問等により疑問のまま残さない努力をしてください。また、小テストを活用して基本的知識の修得に努めること。

### 《履修に当たっての留意点》

2学年後期に履修する臨床評価実習に必要な基本的知識の獲得は必須である。加えて、言語聴覚士として必要な態度についても学ぶ。グループ活動では学びに貢献できるよう積極的に参加すること。

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回 講義形式	授業を通じての到達目標	1学年で学んだ構音のメカニズムおよび機能性構音障害の定義が説明できる。	教科書、配布資料	各回の講義内容の復習を行うこと。小テストを行い理解度を確認する。
	各コマにおける授業予定	構音のメカニズム、機能性構音障害の定義 構音発達(教科書p1~)		
第2回 講義形式	授業を通じての到達目標	誤り音の種類と異常構音とは何かが説明できる。	教科書、配布資料	各回の講義内容の復習を行うこと。小テストを行い理解度を確認する。
	各コマにおける授業予定	誤り音の分類、異常構音(教科書p6~)		
第3回 講義形式	授業を通じての到達目標	各異常構音の特徴が説明できる。	教科書、配布資料	各回の講義内容の復習を行うこと。小テストを行い理解度を確認する。
	各コマにおける授業予定	声門破裂音 (教科書p9~)、咽頭摩擦音 (教科書p10~)		
第4回 講義形式	授業を通じての到達目標	各異常構音の特徴が説明できる。	教科書、配布資料	各回の講義内容の復習を行うこと。小テストを行い理解度を確認する。
	各コマにおける授業予定	咽頭破裂音 (教科書p11~)、口蓋化構音 (教科書p12~)		
第5回 講義形式	授業を通じての到達目標	各異常構音の特徴が説明できる。	教科書、配布資料	各回の講義内容の復習を行うこと。小テストを行い理解度を確認する。
	各コマにおける授業予定	側音化構音 (教科書p14~)、鼻咽腔構音 (教科書p16~)		

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標 各コマにおける授業予定	臨床で用いられる評価方法の概要と実施方法について説明し実施できる。 構音検査①（教科書p19～）	教科書、配布資料	各回の講義内容の復習を行うこと。小テストを行い理解度を確認する。
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標 各コマにおける授業予定	臨床で用いられる評価方法の概要と実施方法について説明し実施できる。 構音検査②（教科書p19～）	教科書、配布資料	各回の講義内容の復習を行うこと。小テストを行い理解度を確認する。
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標 各コマにおける授業予定	系統的構音訓練の実施方法を説明できる。 構音訓練、系統的構音訓練の方法（教科書p34～）	教科書、配布資料	各回の講義内容の復習を行うこと。小テストを行い理解度を確認する。
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標 各コマにおける授業予定	各異常構音の訓練方法が説明できる。 具体的な構音訓練方法①（教科書p42～）	教科書、配布資料	各回の講義内容の復習を行うこと。小テストを行い理解度を確認する。
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標 各コマにおける授業予定	各異常構音の訓練方法が説明できる。 具体的な構音訓練方法②（教科書p57～）	教科書、配布資料	各回の講義内容の復習を行うこと。小テストを行い理解度を確認する。
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標 各コマにおける授業予定	各異常構音の訓練方法が説明できる。 具体的な構音訓練方法③（教科書p72～）	教科書、配布資料	各回の講義内容の復習を行うこと。小テストを行い理解度を確認する。
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標 各コマにおける授業予定	各異常構音の訓練方法が説明できる。 具体的な構音訓練方法④（教科書p86～）	教科書、配布資料	各回の講義内容の復習を行うこと。小テストを行い理解度を確認する。
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標 各コマにおける授業予定	各異常構音の訓練プログラムを立案し教材が作成できる。 訓練プログラムの立案と訓練の実施①	教科書、配布資料	各回の講義内容の復習を行うこと。小テストを行い理解度を確認する。
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標 各コマにおける授業予定	各異常構音の訓練プログラムを立案し教材が作成できる。 訓練プログラムの立案と訓練の実施②	教科書、配布資料	各回の講義内容の復習を行うこと。小テストを行い理解度を確認する。
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標 各コマにおける授業予定	立案したプログラムについてグループ内で協力して発表できる。 訓練プログラムの立案と訓練の実施③ グループ発表	教科書、配布資料	各回の講義内容の復習を行うこと。小テストを行い理解度を確認する。